

コース名	東京テックイノベーションプログラム	コマ数	2	時間数	3
科目名	生成AIとプロンプト設計特論	教員名	岡崎浩二		
概要	<p>生成 AI は、文章、画像、音声、動画、プログラムコード等のコンテンツを生成・編集・要約・分析する技術として、近年、企業活動、サービス開発、新規事業開発、業務改善、マーケティング、企画立案など幅広い領域で活用が進んでいる。本講義では、生成 AI とは何かという基本的な理解から始め、生成 AI を取り巻く最新トレンド、主要な生成 AI サービスの特徴、業務活用の考え方、プロンプトエンジニアリングの基礎と実践について学ぶ。特に、生成 AI を単なる検索・文章作成ツールとして使うのではなく、アイデア創出、企画立案、仮説検証、資料作成、サービス設計、新規事業開発を加速するための実践的な道具として活用する方法を扱う。本授業では主に Google Gemini を使用する予定であるが、ChatGPT 等、他の生成 AI ツールを使用することも可能とする。</p>				
目的・狙い	<p>本授業の目的は、履修者が生成 AI の基本的な仕組みと活用可能性を理解し、自ら積極的に生成 AI を活用しながら、新規事業、サービス開発、業務改善、企業内企画などに応用できるようになることである。</p> <p>生成 AI を活用することで、情報収集、課題整理、アイデア発想、顧客価値の検討、ビジネスモデルの検討、企画書・提案資料の作成といったプロセスを効率化し、よりスピーディーに事業開発・サービス開発へ取り組む力を養う。</p> <p>また、プロンプトエンジニアリングの基礎を学ぶことで、生成 AI から望ましい出力を得るための指示の出し方、条件設定、対話の進め方、出力結果の評価・改善方法を体得する。これにより、生成 AI を業務や企画活動の中で効果的に使いこなすための実践的な基礎力を身につける。</p>				
履修条件 (履修数の 上限、要求 する前提知 識等)	<ul style="list-style-type: none"> 生成 AI に関する専門的な知識やプログラミング経験は問わない。 PC を用いて文書作成、情報検索、プレゼンテーション資料作成ができること。 Google Gemini 等の生成 AI ツールを利用できる環境を準備すること。 				
到達目標	上位到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> 生成 AI の基本的な仕組み、特徴、限界、活用上の留意点を説明できる。 生成 AI の最新トレンドを把握し、企業活動や新規事業開発における活用可能性を検討できる。 目的に応じたプロンプトを設計し、生成 AI から有用な出力を引き出すことができる。 生成 AI を活用して、新規事業、サービス企画、業務改善、マーケティング施策等のアイデアを具体化できる。 生成 AI を用いて、企画書、提案資料、仮説検証計画、サービスコンセプト等を効率的に作成・改善できる。 				
	最低到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> 生成 AI とは何か、その基本的な特徴を説明できる。 Google Gemini 等の生成 AI ツールを基本的に操作できる。 簡単なプロンプトを作成し、文章作成、要約、アイデア出し、情報整理に活用できる。 生成 AI の出力結果を確認し、必要に応じて修正・再指示できる。 生成 AI を活用した簡単な企画案または業務活用案を作成できる。 				
授業実施形 態 (単一また は複数から 構成され る)	形態	○	留意点		
	対面型	○	講義、演習、グループディスカッションを行う。		
	ハイフレックス型(オンタイム)	○	遠隔参加者がいる場合は、オンライン参加を認めることがある。		
	ハイフレックス型(録画併用)				
	録画視聴型				
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 講義で扱った生成 AI ツールを各自で実際に使用し、プロンプトの作成、出力結果の比較、改善を行うこと。 自らの業務、研究、関心領域、新規事業アイデアに関連するテーマを設定し、生成 AI を活用して情報収集、課題整理、企画案作成を行うこと。 最終課題として提出する企画案または活用案について、授業外時間を活用して検討・改善すること。 				

<p>授業の進め方(グループワーク方式など、進め方の特徴)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前半では、生成 AI の概要、主要サービス、技術トレンド、社会・産業への影響について講義を行う。 ・ Google Gemini を中心に、生成 AI の基本操作、効果的なプロンプトの作り方、出力結果の改善方法について演習を行う。 ・業務活用、新規事業企画、サービス開発、マーケティング、資料作成等の具体的な場面を想定し、個人またはグループで生成 AI を活用した演習を行う。 ・グループディスカッションを通じて、生成 AI をどのように企業活動や新規事業開発に活用できるかを検討する。 ・授業の最後に、生成 AI を活用して作成した新規事業案、サービス企画案、業務改善案等について簡単な発表または課題提出を行う。
-----------------------------------	--

	回数	内容	授業実施形態 [対]、[ハ(オ)]、[ハ(録)]、[鏡]
<p>授業の計画</p>	<p>第 1 回</p>	<p>生成 AI とは何か：基本概念、生成 AI の種類、代表的サービス、社会・産業への影響、最新トレンド</p>	<p>[ハ(オ)]</p>
	<p>第 2 回</p>	<p>生成 AI の実践活用：Google Gemini の基本操作、プロンプトエンジニアリング、業務活用、企画立案、新規事業・サービス開発への応用演習</p>	<p>[ハ(オ)]</p>
<p>成績評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内演習への参加状況、グループディスカッションへの貢献、提出課題の内容により評価する。 ・提出課題では、生成 AI を活用して作成した新規事業案、サービス企画案、業務改善案、または生成 AI 活用提案を評価対象とする。 ・評価にあたっては、生成 AI の活用度、課題設定の妥当性、企画内容の具体性、実現可能性、独自性、出力結果を適切に検証・改善しているかを確認する。 ・生成 AI の出力をそのまま提出するのではなく、履修者自身の考察、判断、修正、検証が含まれていることを重視する。 		
<p>教科書・教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は必要に応じて講師より提供する。 ・授業では Google Gemini を中心に使用する予定であるが、他の生成 AI ツールを併用してもよい。 ・演習に必要なテンプレート、プロンプト例、企画検討シート等は授業内で配布する。 		
<p>参考図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 ・必要に応じて、生成 AI、プロンプトエンジニアリング、新規事業開発、サービスデザイン、ビジネスモデルに関する参考資料を授業内で紹介する。 		